

アンケート調査報告

ガフクロミックフィルム研究会
実行委員会

アンケート方法と対象

- 実施方法

アールテック社・ベリタス社のデータベースに登録されているユーザに対して広報し、ベリタス社ホームページ上で実施した。

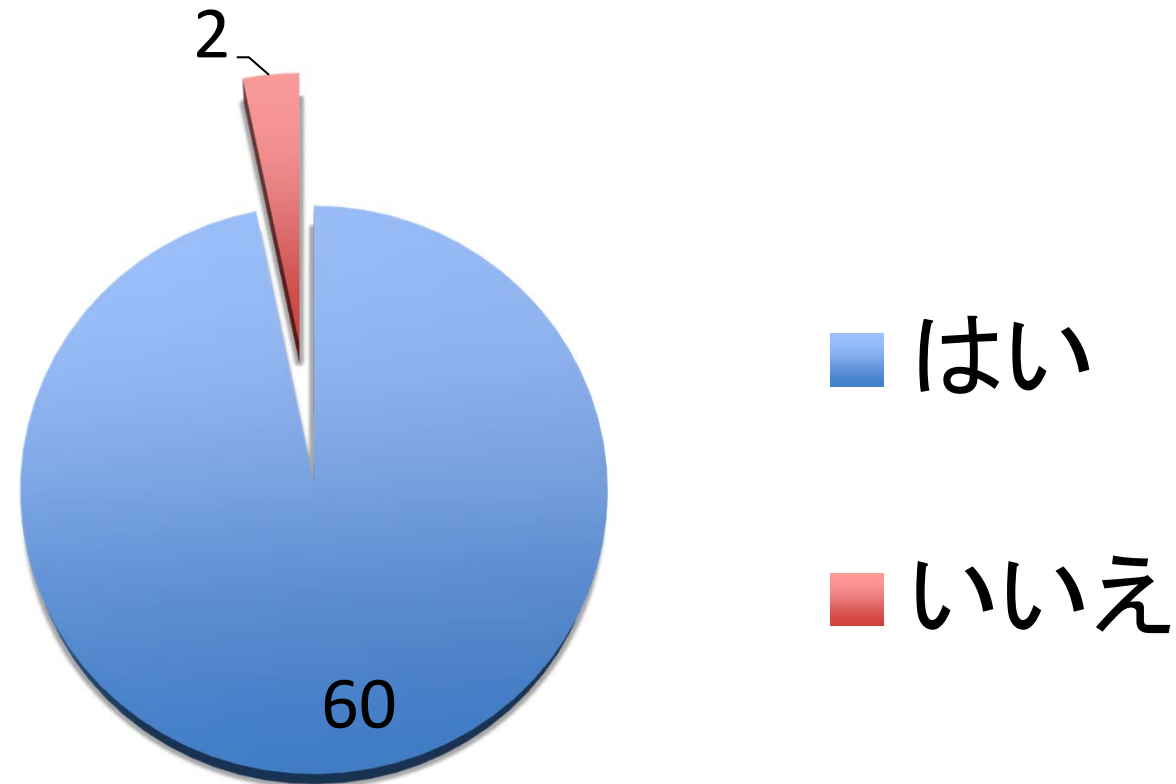
- 実施期間

2014年10月1日から10月15日まで

- 総回答数

61人

フィルムを使用したQAを実施しているか



いいえと回答した人のうち、1名は動物実験用に使用と回答。
回答者のうち、フィルム不使用的是1名のみ。

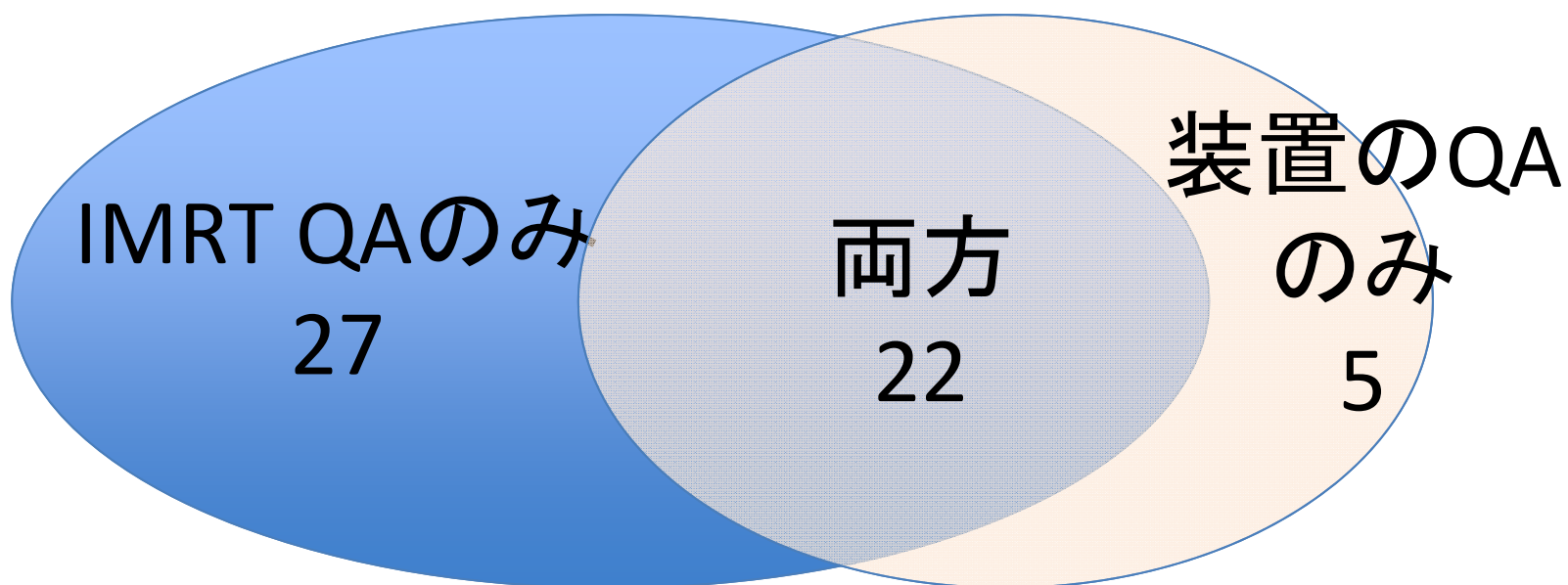
どんな種類のフィルムを利用しているか？

| フィルム種類 | 施設数 |
|---------|------------------------|
| EBT3 | 54 |
| EBT2 | 13 |
| RTQA | 24 |
| その他のRCF | 2 HS: 1 MD-55: 1 |

(複数回答あり。RTQAは20施設で幾何学QAに利用)

どのようなQAに利用しているか

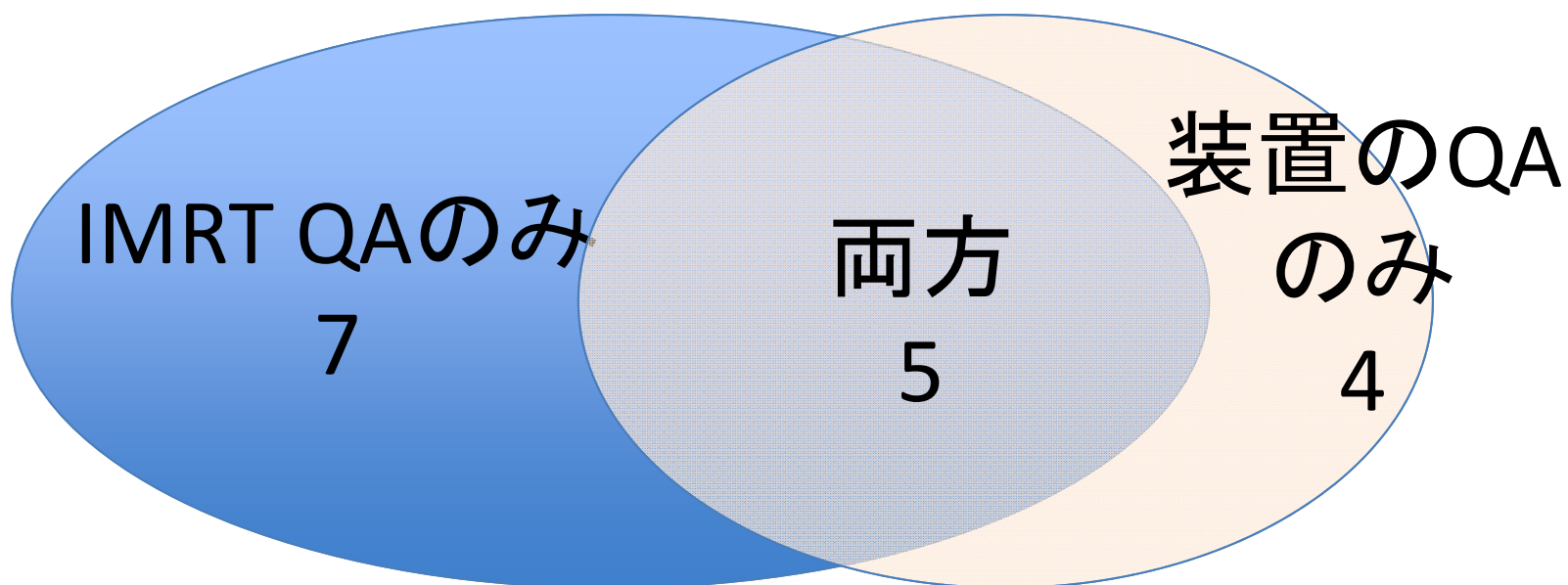
<EBT3 film>: 総数 54



EBT3を利用せず: 6

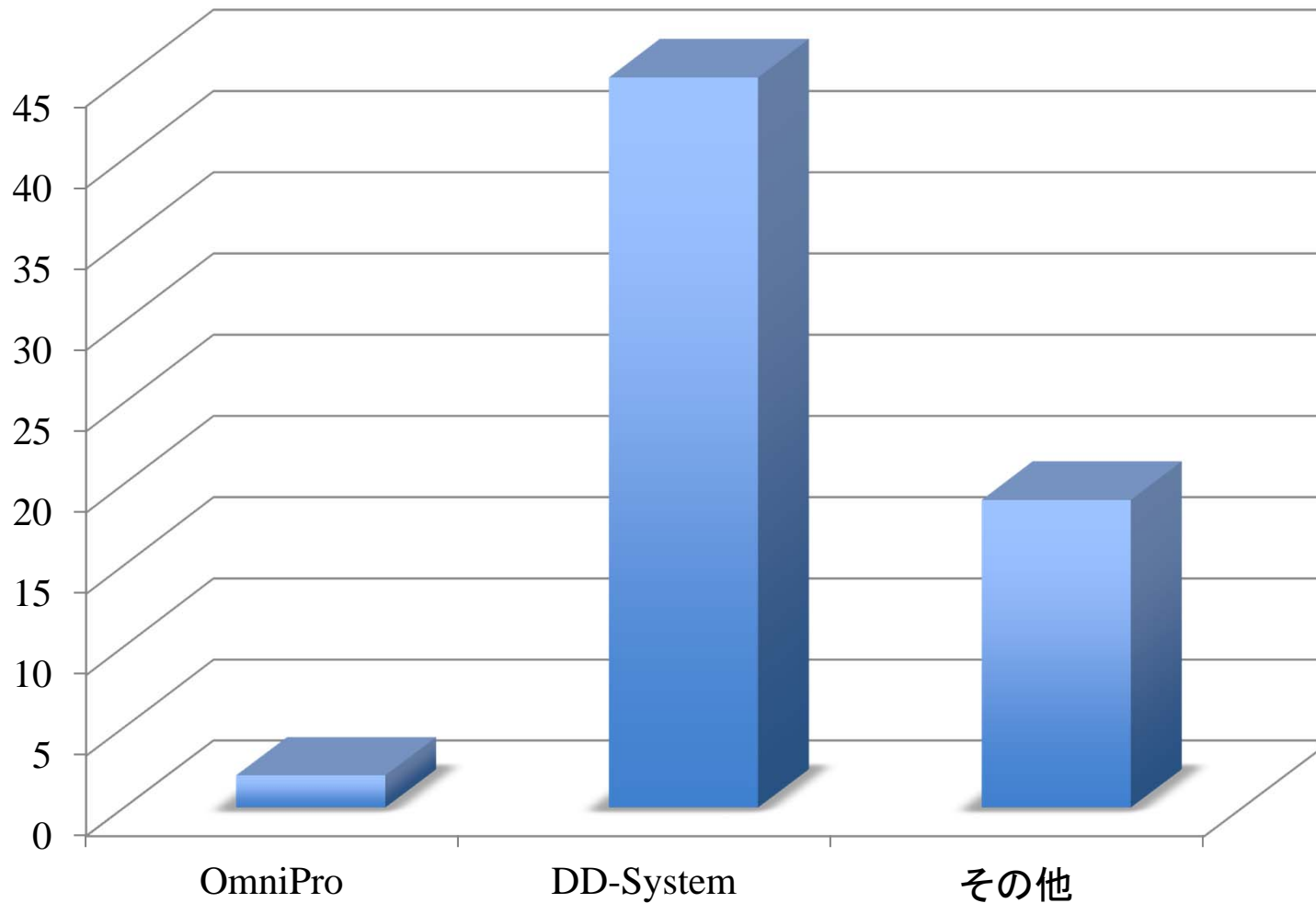
どのようなQAに利用しているか

<EBT2 film>: 総数 13



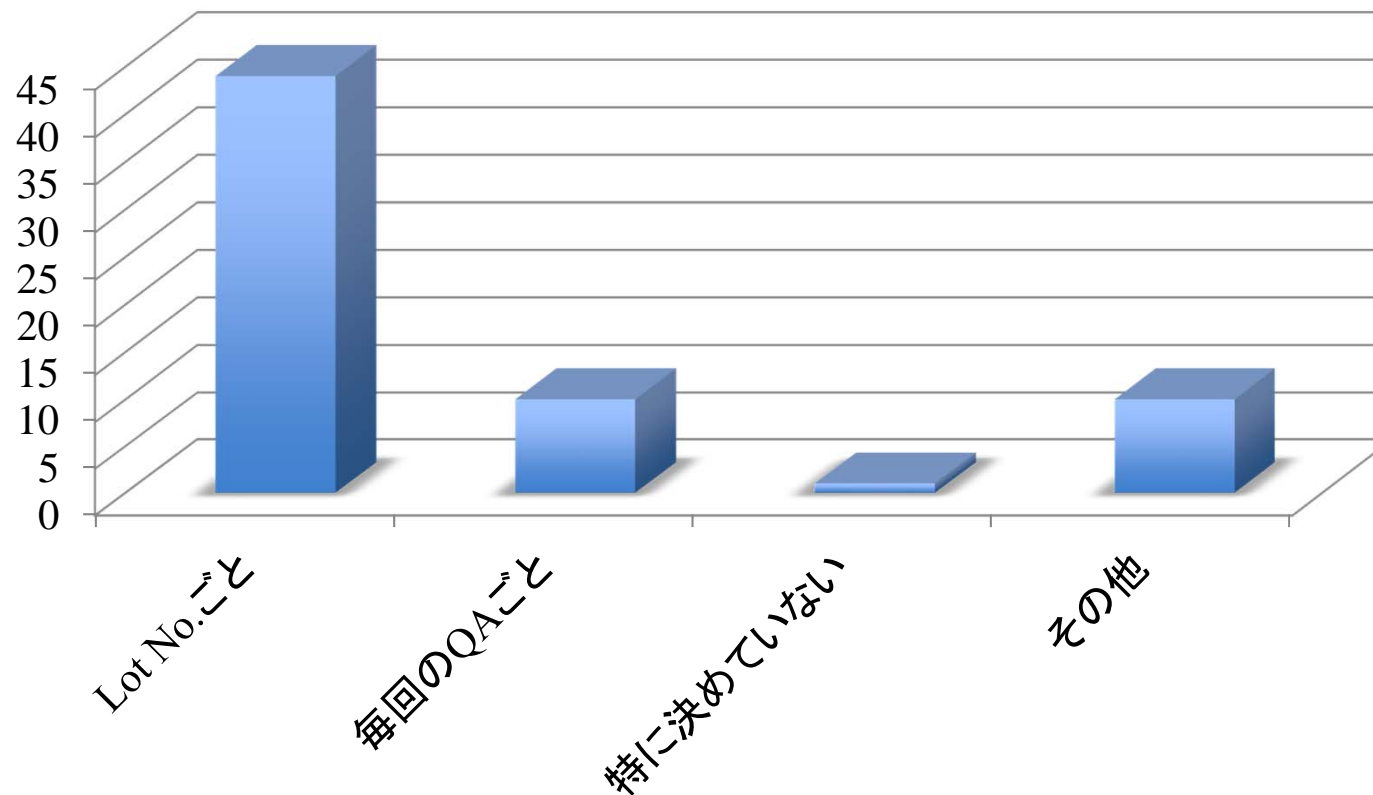
EBT2を利用せず: 47

各施設の検証ソフト



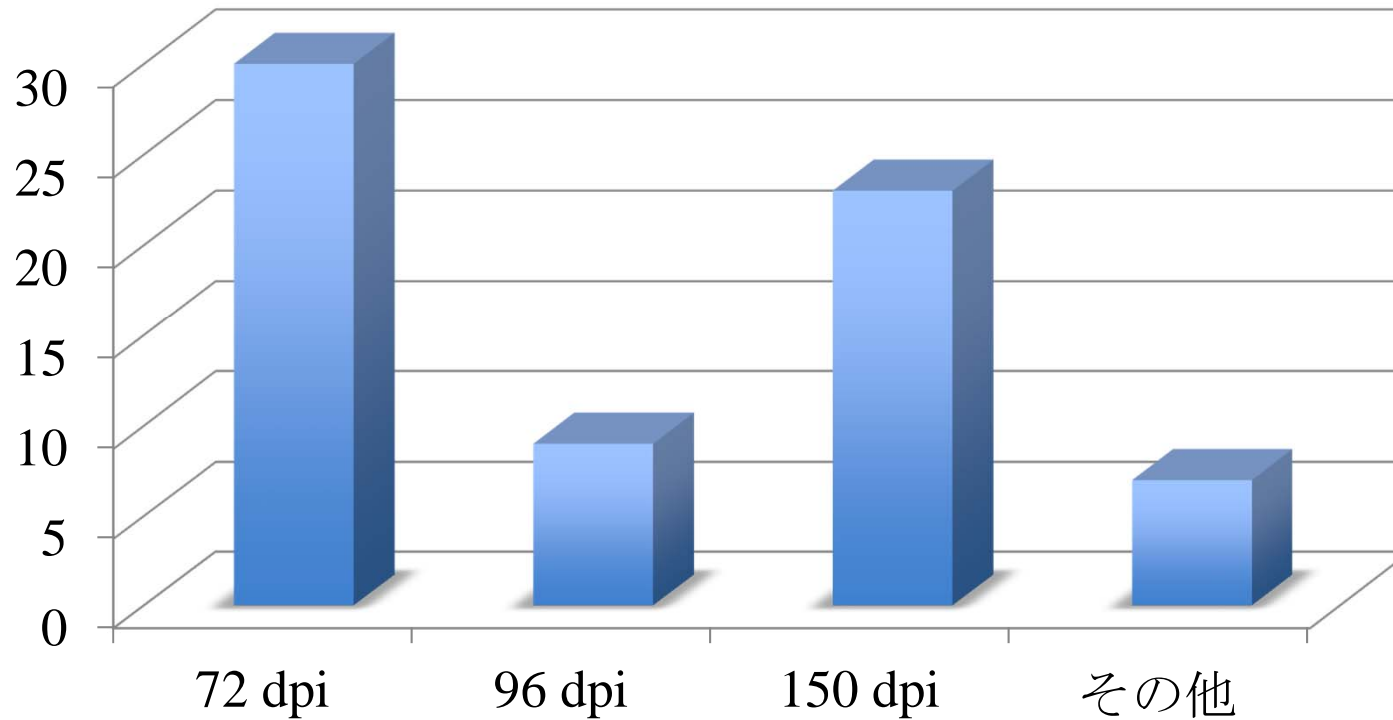
アンケートに答えてくださった施設の中では、
DD-Systemが最も多かった。

特性曲線の取得頻度



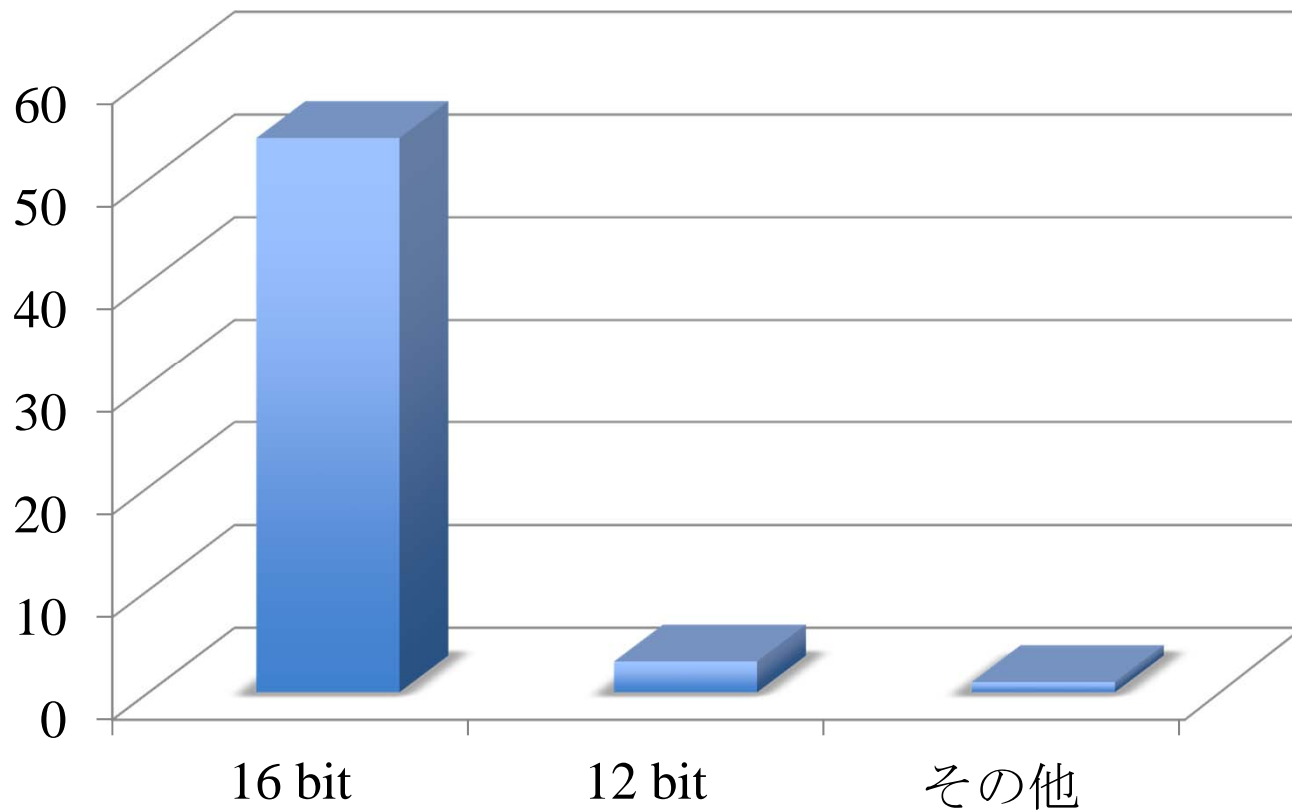
ロット番号ごとに取得する施設が最も多かった。
ただし、同じロット番号でも3ヶ月以上経過すると再度取得する

各施設のスキャンプロトコル (解像度の設定)



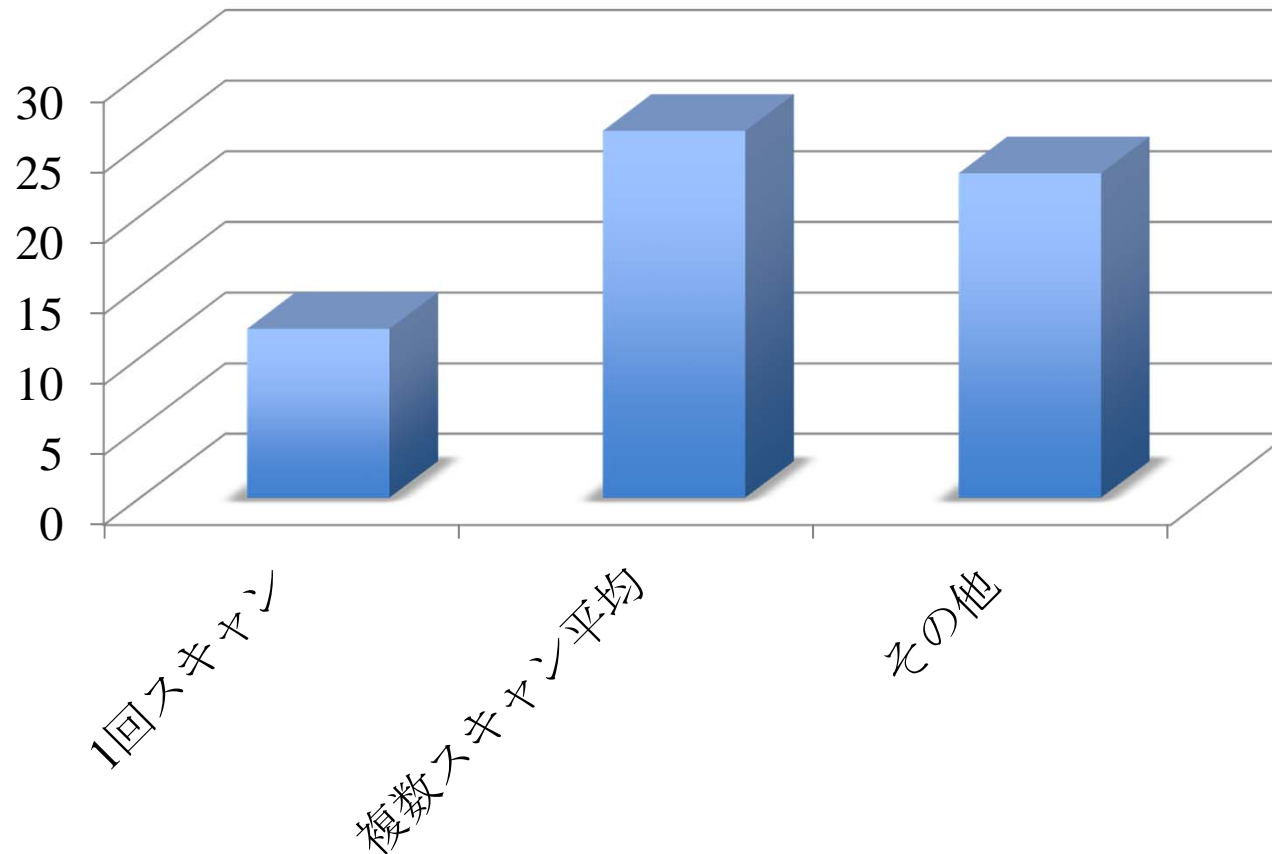
その他の設定では、64, 75, 300 dpiが選択されていた。

各施設のスキャンプロトコル (階調設定)



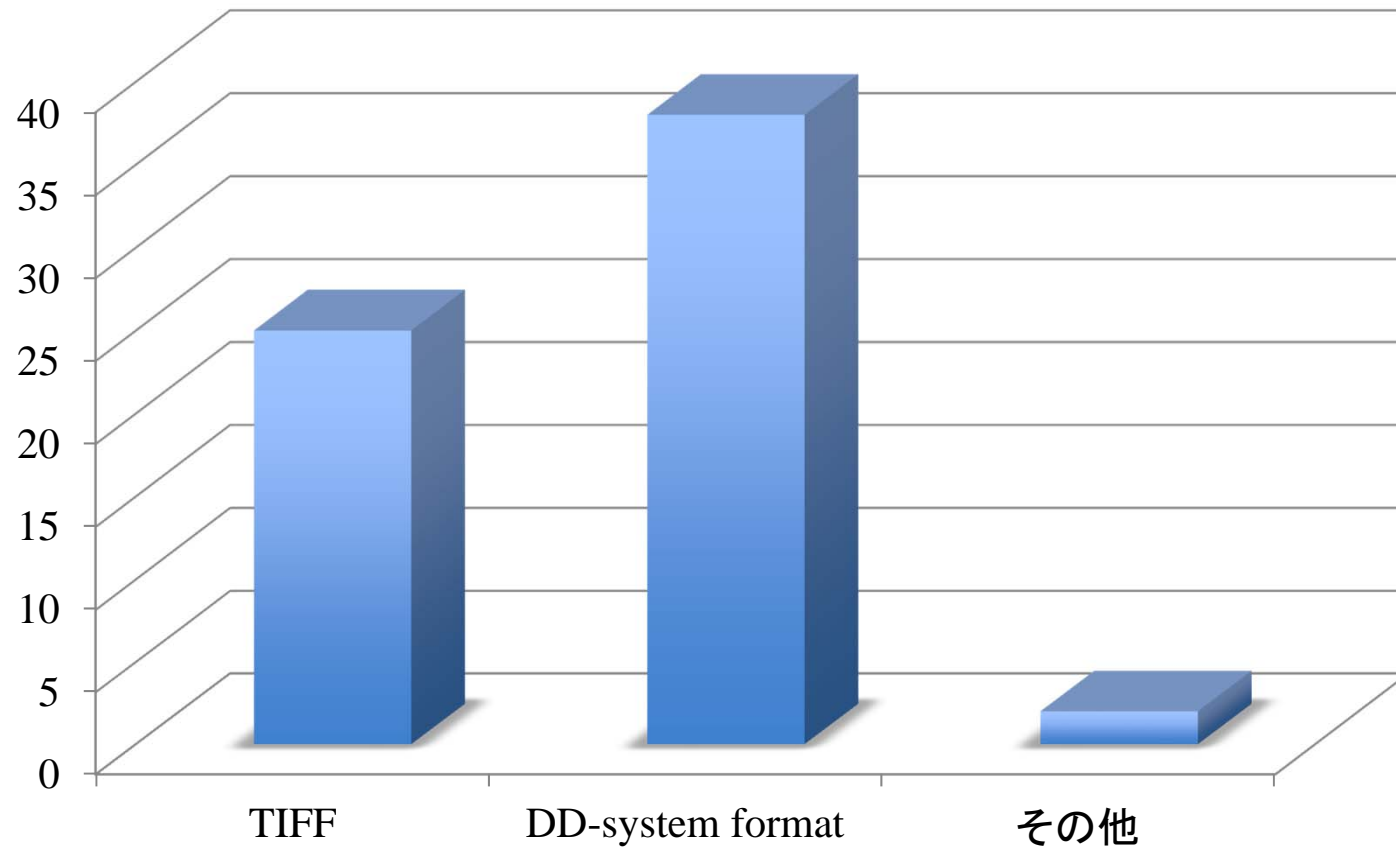
48 bitと記載されているものは、16bit/3colorと解釈

各施設のスキャンプロトコル (スキャンデータ取得法)



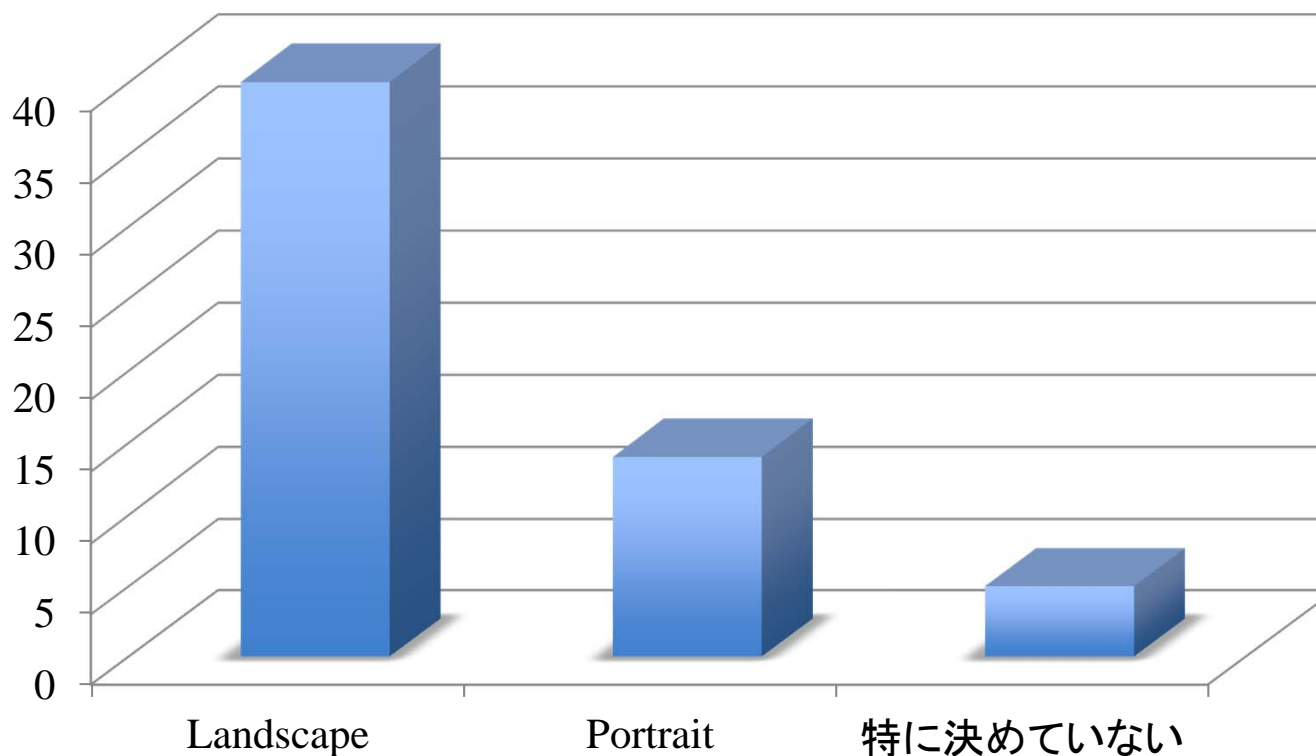
その他の項目で多い手順は、最初の3回データを捨てて、その後のデータを利用する手法であった。

各施設のスキャンプロトコル (フィルム画像データ保存形式)



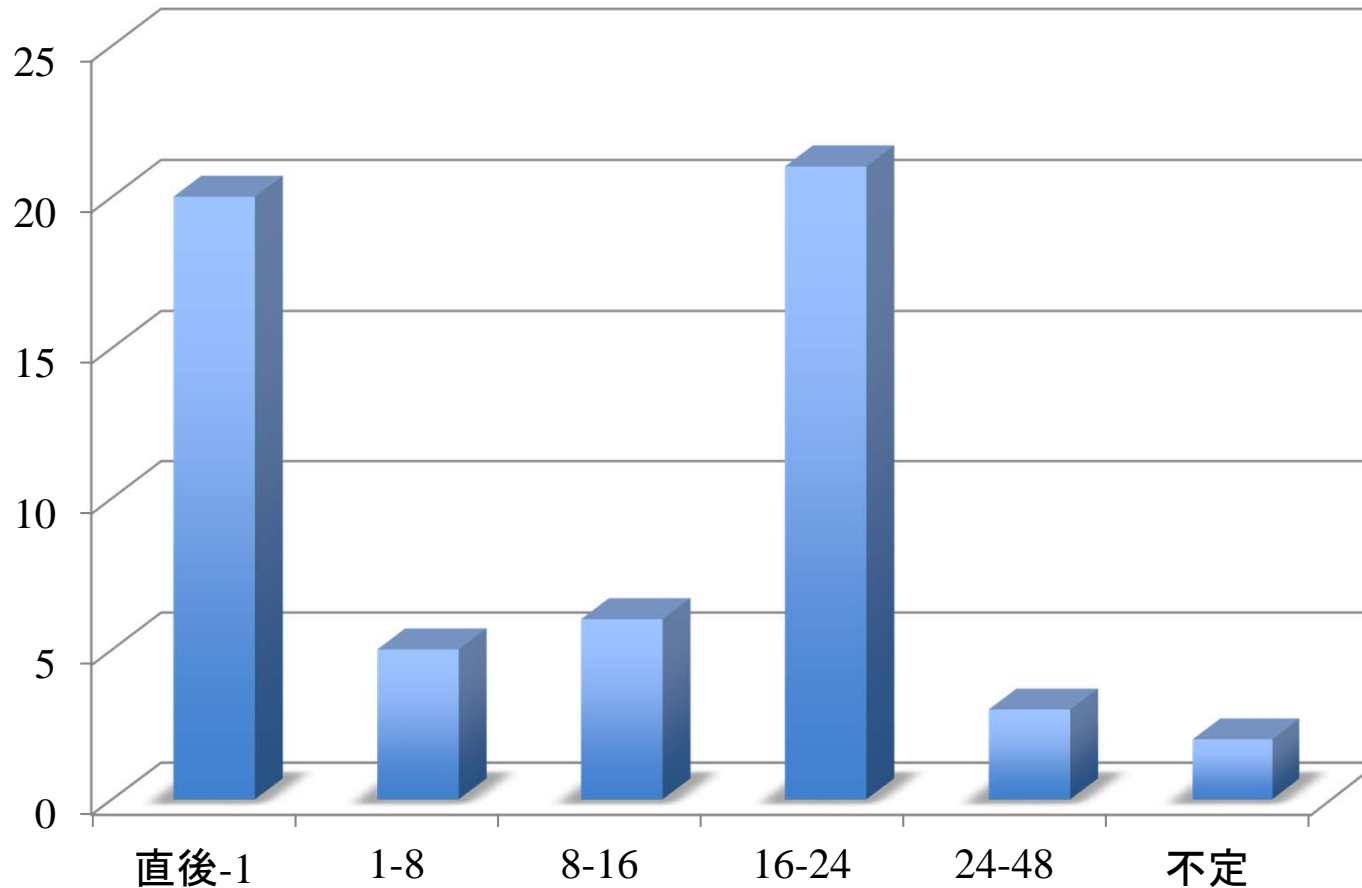
その他の項目では、JPEGとDICOM形式がそれぞれ1施設であった。

各施設のスキャンプロトコル (スキャン時の読み取り方向)



Portraitと回答した人の半数以上はA4サイズまで対応のスキヤナを利用していた。

各施設のスキャンプロトコル (スキャンまでの待機時間)



直後と24時間のプロトコルが多かった。

まとめ

- ・各施設において様々なプロトコルが作成されていた。
- ・特性曲線の取得はLot.番号ごとに取得する施設が多かった。
- ・検証ソフトはDDシステムが一番利用されている。
- ・解像度の設定は72 dpiが最も多かった。(次点は150 dpi)
- ・スキャンデータの取得方法は複数回取得する施設が多い。
- ・データ保存方式はDD-formatが多数。
しかし、DD-systemであっても、TIFF形式で保存している施設もあった。
- ・スキャン時の読み取り方向はLandscape方向が2/3を占めた。
- ・スキャンまでの待機時間に施設によってばらつきが見られた。
(照射後すぐに読み取るのは適切でない。)